

高温等に伴う農作物等の管理対策

令和8年4月24日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が4月23日に発表した1か月予報によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月は気温が高くなることが見込まれています。

一方、移動性高気圧に覆われた日には、放射冷却等により降霜のおそれがあります。

ついては、今後の気象情報に留意し、以下のとおり、農作物等の管理を行ってください。

なお、まだ体が暑さに慣れていない時期ですので、熱中症に注意しましょう。

1 水稲

(1) 育苗の緑化時期までに極端な高温が予想される場合は、高温対策被覆資材で被覆するなどして苗ヤケを防ぐ。

(2) ハウス育苗では、高温が予想される場合はハウス側面を十分開放するとともに、苗の水分不足によるしおれや過湿による徒長に注意してかん水する。

なお、田植え当日は、苗がしおれないよう、水田への搬出前後に必要な応じかん水する。

(3) 高温により、水田内雑草の発芽や生育が早まるため、雑草の発生状況をよく観察し、除草剤の散布適期を逃さないようにする。

また、高温時に薬害が発生しやすい除草剤があるので、除草剤のラベルの注意事項をよく確認する。

2 麦

(1) 高温により出穂期が早まる可能性があるため、赤かび病防除や小麦の穂揃い期追肥はあらかじめ準備を整え、出穂期を確認して適期に行う。

(2) 高温や土壌が乾燥した後に土壌が過湿になると成熟期前に枯れるおそれがあるため、速やかに排水できるよう排水溝を点検し、湿害を避ける。

3 園芸全般

(1) 高温で生育が早まる可能性があるため、各種管理作業を適期に行えるよう早めに準備する。

(2) 気温の上昇に伴い、施設ではコナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類、露地ではアブラムシ類などの害虫が増加するおそれがあるので、病虫害発生予察情報に留意し、早期発見に努め、発生状況に応じて適期に防除する。

(3) 高温時の薬剤散布は、薬害が発生するおそれがあるため、朝・夕の涼しい時間帯に行う。

(4) 施設栽培は、遮光資材の被覆・展張や、換気、循環扇による送風等で温度・湿度を適切に管理する。ただし、温度・湿度が急変しないように換気量は徐々に増やす。

- (5) 高温時は吸水量が増加するため、土壌や用土が乾燥しすぎないように、土壌水分に注意し、日中にしおれない程度にかん水する。

4 野菜

(1) 施設野菜

- ア 苗がしおれないよう、25℃を目安に換気しハウス内温度を下げ、遮光やこまめなかん水を行う。
- イ トマトは、着果負担による葉先枯れなどの症状がみられる場合、枯死部位から病害が発生しやすくなるため、枯死部や罹病部を除去した後、薬剤防除を行う。
- ウ いちごは、高温条件で品質が低下しやすいため、気温が低い早朝収穫に努めるとともに、収穫後は丁寧に取扱う。
- オ ハウスすいかは、日中 30℃・夜間 15℃を目安に換気量を調整するとともに、急激な換気による葉焼け及び脱水に注意する。
- また、晴れて気温が高くなることが予想される場合は、日中に葉がしおれないように、朝、かん水する。

(2) 露地野菜

- ア 定植時の高温乾燥で活着が遅れないよう、適切にかん水する。
- なお、かん水設備がない場合は、定植時に植え穴にかん水する。
- イ えだまめの育苗では、は種直後の高温で発芽不良となるため、日中は遮光資材等を使用して温度上昇を抑える。
- ウ すいかの密閉トンネル作型やトンネル早熟作型では、高温による葉焼けを防ぐため、通常より換気量を多くする。ただし、密閉トンネル作型では、高温時に急激に多くの穴を開けると湿度の低下により葉焼けを起こすため、換気穴は早朝に開ける。
- また、晴れて気温が高くなることが予想される場合は、日中に葉がしおれないように、朝、かん水する。
- エ ねぎのチェーンポット育苗の定植では、定植ほ場の土壌水分が少ない場合は、土壌の乾燥を抑えるため、定植当日に定植溝を作る。
- 越冬ねぎ（春ねぎ）は、抽たい時期が前進する可能性があるため、適期収穫に努める。
- オ アスパラガスは、土壌が乾燥すると萌芽が抑制されたり、品質が低下したりするため、必要によりうね間かん水等を行う。
- カ さといもの定植後マルチ被覆栽培は、出芽した芽を焼かないようにほ場を見回り、芽を確認したら速やかにマルチ部分を切り開く。
- キ そらまめは、土壌が乾燥した場合は、適宜うね間かん水等を行う。

5 果樹

- (1) ぶどう、日本なし、いちじくなどの施設栽培は、ハウス内の高温による生育障害を受けやすいので、換気により温度・湿度を適切に管理する。

- (2) 露地いちじくの凍霜害対策として被覆している資材は、下側を開放し熱気を逃がし、高温障害防止に努める。
- (3) 定植して1年未満の若木は、根圏が狭く乾燥に弱いため、降雨がない状態が続く場合は適宜かん水する。
- (4) 移動性高気圧に覆われた日は、放射冷却等で霜害が発生するおそれがあるので、気象情報に注意し、必要に応じ対策を行う。

6 花き

- (1) チューリップ等の球根養成では、土壌が極端に乾燥しないよう適切にかん水する。特に、砂丘畑など乾燥しやすいほ場では、スプリンクラーで定期的にかん水する。
- (2) 切り花類及び鉢物類などの施設栽培は、曇天・雨天後の高温や強日射により葉焼け等の生理障害が生じやすいので、遮光資材の被覆や換気、循環扇による送風等により温度・湿度を適切に管理する。
また、土壌や用土が乾燥しすぎないように土壌水分に注意し、適切にかん水する。

7 畜産

- (1) 急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策は早めに行う。特に、換気扇、送風機は掃除、注油、ベルトの張りや電気系統などの点検を行い、稼動を確認しておく。
- (2) 畜舎は風通しを良くするため、野生生物や塵埃による病原体の侵入防止対策を行った上で、開口部は可能な限り開放するとともに障害物は除去する。
- (3) 搾乳牛は畜舎内の温度が20℃を超えたら暑熱対策を行い、家畜の体感温度を低下させる。
- (4) 家畜の様子をよく観察し、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、常に新鮮な飼料・飲水を与える。

8 きのこ

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、空調設備のない施設は、換気等により適切な温度に管理する。換気をする場合は、害菌・害虫の侵入防止対策を行う。
- (2) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。
- (3) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期に収穫する。
- (4) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (5) 仮伏せ中のほだ木をシート等で被覆している場合は、通風、日除け、散水などにより温度を管理する。
- (6) その他、極端な温度変化があった場合は、異変の早期発見に努め、適切に対応する。